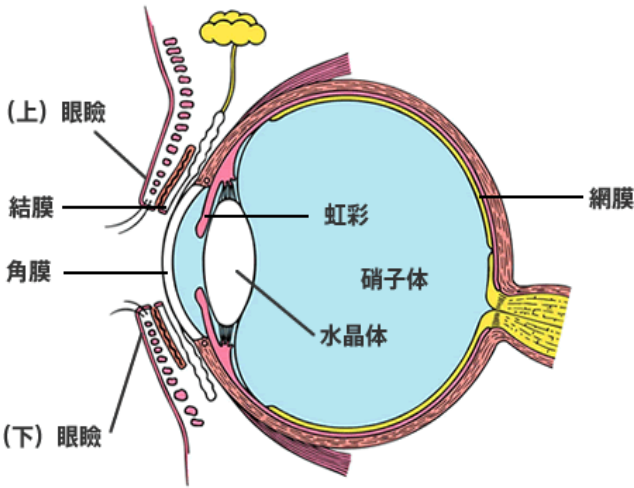


はやり目(ウイルス性急性結膜炎)

結膜ってなに?…結膜は、くろめ(角膜)のふちからま

ぶたの裏側までをおおっている粘膜です。白目の表面の所は眼球結膜、まぶたの裏側のところは眼瞼結膜と呼ばれます。

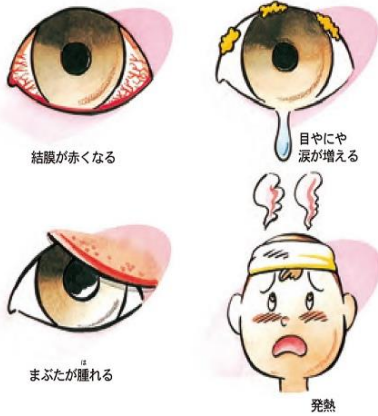
結膜は、眼球とまぶたをつなぎあわせて、それらがうまく動くようにしています。また、涙腺でつくられる涙は眼球表面をうるおし、ゴミや老廃物を流し出して、細菌やウイルスなどが眼球の中に侵入するのを防ぐ役割をしています。結膜の部分の疾患として一般的なものは結膜炎、結膜弛緩症、翼状片などです。



急性結膜炎ってどんな症状が出るの?

結膜炎になると、結膜が赤くなったり充血、まぶたの裏側にブツブツができて目やにや涙が増え、かゆみ、しょぼしょぼ感、ゴロゴロ感、まぶしい感じなどがあらわれます。症状がひどくなると、出血、耳の前のリンパ腺・耳前腺の腫れ、まぶたの急激な腫れ、白目がブヨブヨしてくる(結膜浮腫)、発熱が起る事もあります。初発時には片目の症状であっても、時間経過と共にもう片方の眼にも症状が現れることがあります。

角膜に炎症が生じた場合は、角膜の透明性が低下することもあります。角膜は、光を透過させ網膜に焦点が合うように光を伝達するという重要な役割を担っています。そのため、角膜性病変が強くなると、網膜への光の透過性が低下することになり、まぶしさや見えにくさを感じるようになります。



急性結膜炎はなぜ起るの?

細菌、ウイルス、カヒなどの微生物、紫外線、ほこり、ごみ、摩擦などの物理的刺激、酸・アルカリなどの化学的刺激、花粉などによるアレルギー反応などによって結膜に炎症が起こります。このうち、短期間に集団的に発生する急性結膜炎が、

いわゆる「はやり目」といわれるもので、日常よく見られる代表的な病気です。これは、患者の目からの分泌物がもとで伝染します。ウイルスによるものが最も多く、伝染性も非常に強いので、感染予防がとても大切です。

ウイルスってなに?

ウイルスは、細菌よりも小さい目に見えない微生物で、自分で生きることができません。ヒトや動物の細胞内に侵入して、その細胞を自分の住みやすいように変えて住みつきます。ウイルスの住みついた細胞はやがて衰え、死んでしまい、病気になるります。ところが、ウイルスに対するヒトや動物の抵抗力が強い時は、ウイルスは活動をすることができないので、病気になるりません。ウイルスに侵されないためには、強い体をつくることが大切です。

